

枝廣先生との 意見交換会を開催

今回のテーマは「下川町の財政」



下川の財政は 持続可能なのか

恒例となってきた枝廣淳子氏を囲んでの意見交換会を9月5日に開催しました。そう、あの大停電の前日です。

翌日枝廣さんは下川で身動きが取れなくなってしまうが、町民が気遣いあって声を掛け合い、差し入れしたり助け合っている様子をご覧になって「もちろん被災したくないけど、被災するなら下川町にいるときがいい」とご自身のブログにコメントされています。

さて、意見交換のテーマは枝廣さんからご提案があり「財政」となりました。

以前の意見交換でも下川の3つの弱点を鋭く指摘されていました。継続的に関わっていただく中で、中長期の課題をご提示いただきました。

基金残高の減少、交付税の減少傾向といったデータを共有した後で意見交換。議会でも財政問題に関しては繰り返し指摘してきましたので、課題と危機感を再確認。



しかし、下川町の地域づくりは対外的評価が高く、各種財政指標も健全とされているため、町民全体で危機感を共有できているかという疑問符が付きまします。

そこで「危機感が薄いときにどう取り組むか」、というテーマで富山市の事例をご紹介します。

「幸せ経済社会研究所」のホームページに掲載されている富山市の森市長のインタビューから抜粋します。枝廣：物事を進めていく原動力は何なのでしょう？

森：「今やらなくてはならない」という強い気持ちです。例えば、富山市では市道の維持管理費が現在、市民1人当たり年間4千円かかります。それがこのままだと、25年後ぐらいには1人当たり7千円ぐらいになります。

今の若い世代、10代、20代にしてみると、「30年後ぐらいに社会の中核を担うときに高コストになっている」ということになりました。それでは、僕らの世代として責任が取れません。だから今のうちに、たとえ現在の市民に嫌がられても、将来市民のためにやらなくてはならない、と思っています。

他にも「花束を抱えて電車に乗ると運賃が無料に！」などこのインタビュー記事はぜひ一読いただきたい内容です。

森市長のインタビュー記事はこちら



編集後記

あれ以来、真冬に停電したらとアレコレ考えています。

我が家のメインストープは石油ストーブで、停電時にも使えるようにするには、少なくとも点火時の消費電力360Wをクリアしなければなりません。

実は、大停電の前日にオフグリッドソーラー講座を受けたばかりだったので、太陽光発電の電気をバッテリーに蓄電、それを使って石油ストーブを動かせないかと調べていました。

すると、私が思い描いていたやり方で、点火をクリアできたとの情報が町内の方から！ しかも石油ストーブの型まで同じ！

この号が発行される頃には、我が家にソーラーパネルをお迎えしているかもしれません。(奈須)